

育ちの森 子ども支援室「ぬっく」

活動レポート

2018年 10月

子どもたちにも「実りの秋」



一雨ごとに秋の色も深まり、虫たちの声も一段とにぎやかになってきました。実りの秋は、子どもたちにとっても、今までの学びや経験を生かして一歩前に踏み出すとき。

子どもたちの育ちを保護者・学校・関係機関のみなさんとともに支えていきたいと思えます。



子ども理解講座

テーマ

「発達の特徴をもつ子どもへの接し方」



福岡寿先生を講師にお迎えして、保護者のみなさんと教職員がともに参加する「子ども理解講座」を開催しました。

特性をもつ子どもたちとの関わり方について、振り返ったり、改めて考えたりするチャンスをいただきました。



<参加した方々の感想>

今まで難しく考えすぎていたなと思いました。「何がいけなかったんだろう」「どうしたら普通になってくれるんだろう」と。でも、「まず、その子の特性に気がつけばいい」というお話に、少し気持ちが軽くなりました。我が子の得意なこと苦手なことをまとめたノートを早速作ってみます。(保護者の方)

消極型スペクトラムの子を支えられるようなクラスづくり、また、就学前の幼保の時期が一番の要ということを変更して感じました。本人に苦手な部分を自覚させることは幼児期からスタートしているということが、とても心に響き、その子の人生に私たちは携わっているのであるから、さらにきめ細やかな配慮ができる保育力を養おうと感じました。(教職員の方)

☆子ども支援室「ぬっく」の職員は…こんな仕事をしています。

- ・支援室に来所した保護者や家族の方のお話を聞き、お子さんへの具体的な支援について職員全員で検討した上で、必要な関係機関と連携しながら対応する。
- ・保健センターと連携し、子育てや発達に不安を抱えている保護者や家族の方の相談にのる。
- ・園や学校を訪問し、活動や授業中の様子を参観する。先生方とともに、お子さんの得意なことを伸ばし、苦手なことを支援する手立てを考える。
- ・小学生のひらがなの読み書きについて検査し、支援が必要な子への対応について、先生方と話し合う。
- ・子どもの成長や発達に関する研修会を企画し、開催する。



子ども支援室「ぬっく」

◇公的な相談機関であるため、園や学校など関係機関との連携が可能です。